

◆福山のものづくりを発信

- 福山はものづくりのまちだと思う。海外のトップブランドも福山の素材や技術を採用している。それなのに市民には浸透していない。
- これだけ素晴らしい素材が福山にあるので、企画・プロデュースする人が来て、マッチングできれば、福山発のものがたくさん生まれると思う。



生駒芳子委員

◆全国のモデルを福山で

- 「複業モデル地区」プロジェクトとして、新しいワークスタイル・ライフスタイルを実現する環境を産官学連携で整備し、人材を呼び込むという仕組みを提案したい。
- 今回提案する複業モデル地区プロジェクトは、全国のモデルとなるものを福山の中でつくっていくというものになる。福山でまちづくりが動き始めているし、社会的な背景や政府が兼業副業を推進していることもあり、追い風が吹いていると思う。



三川貴志委員

◆緑を大切に、歩く喜びを感じる駅前を

- 場所の記憶とはひとつの建築が作るものではなく、地域全体の風景で作り出すものである。そのためには古いものも含めて、歩く喜びが感じられる中心市街地の環境づくりや基盤となる土木デザインが重要である。
- 葉が落ちる前に枝が切れ、幹だけが太った奇形の植物が多い福山市の街並みの中で、美しい心を養うことは難しい。
- 本来、我々の命よりも長く生き続ける樹木や建築、土木などの街並みの生命を大切にしなければ豊かな生活は得られない。



前田圭介委員

◆おもしろい人たちが集まるところに若者は集まる

- 何かモノがあるということではない。若者はやっぱりおもしろい人たちが集まっているところに行きたいと思っているようだ。
- 福山にもすごい人がいる。その人たちと若い人がコミュニケーションできる場があれば、若い人たちもこのまちの魅力をわかると思う。



久田数枝委員

◆交通の問題をどう解決するか

- 高齢者が増える時代に備えて、駅前の交通の問題をハード的にどう解決するか、今回のビジョンに描かないといけないと思う。
- 人づくり、人育ては福山では必要な軸になると思う。人育てと関連するハードの整備が重要になってくる。



佐々木伸子委員

◆市民の方に愛される駅前を

- 市民の方に愛される駅前になれば市外の方も来たくなると思う。
- 市民は駅前ににぎわいを求めているのか。駅を出ると、地方ならではの静けさがある、というのもいいかもしれない。どちらかに振り切ったほうがいい。



ディスカバーリンクせとうち

◆歴史的なものを残しながら新しいものをつくることも大事

- 行政に頑張ってもらわないといけないことに、歴史を残すことがあると思う。
- 伏見町には福山城の史跡がたくさんある。歴史的なものを残しながら新しいものを作っていくというのは大事なことだと思う。



渡邊一成委員

◆体裁の良い議論ではなく、まちが変わることを最優先に

- ここは(協議会)は体裁のよい議論をする場ではない。自由闊達で、言葉の殴り合いをするような議論を期待する。その結果、再生につながる本当のビジョンが生まれると思う。
- まちが良くなるのが最優先だと思う。地主の方々が乗ってくれる意見を期待する。



清水義次座長

第2回福山駅前再生協議会を開催しました

日時: 2017年(平成29年)5月24日(水曜日)
場所: 福山市役所3階 中会議室

今回は福山駅前の再生に向けたコンセプト(案)やターゲットなどについて意見交換を行いました。



次回
7月下旬
予定

◆地域の文脈を大切に、地主の心に響く議論を

- 負担した者が受益するという社会になったと思う。
- 市民の共感を得るためには、その地域の歴史とか文脈を大事にしたほうがいいと思う。



岡崎正信さん(アドバイザー)

◆駅前に人がいる状態をどうつくっていくか

- 商店街を消費する場と捉えずに、人が働く場と捉えていく方がいいと思う。商店街に人がいるという状態をどうつくるかが大切だと思う。
- 資料の中に「生きがいを感じる暮らし」、「自分らしく働く」という言葉があるが、生きがいとは何で、「自分らしく」とは誰のことか、「自分らしく働いている」状態とはどういう状態なのか、具体的に話をしていくことが大切だと思う。



嶋田洋平さん(アドバイザー)

◆福山にばらを活かした回遊ネットワークを

- ボストンではエメラルドネックレスという市内の公園などをつなげたネットワークをつくっている。福山も例えば、ばらのネックレスという名前で駅前から芦田川、競馬場跡地に向けて小道にばらを植えるなどしてはどうか。



奥山健二委員

! 他にもこのような意見がありました

- 備後圏にはオンリーワン企業がたくさんある。全国でもこのような地域はないかもしれない。しかし経営者と話をすると、学生が集まらないと言う。地元企業への就職ができれば、若者の定住化につながると思う。【株式会社広島銀行】
- 伯備線の備中高梁駅では、駅のバリアフリー化として、橋上駅舎及び自由通路の設置により東西が分断されていたものを解消した。高梁市は駅自由通路に併設した図書館(TSUTAYA+スターバックス)を開設し、学生のまちなので駅を中心に集えるようにしている。【西日本旅客鉄道株式会社】
- 非日常的な空間が出来れば、中心市街地も変わっていくのではと思った。再生のコンセプトは、「ニューウェーブの人と地元の者との融合」だと思う。【福山商工会議所】